

第2回 阿賀野市男女共同参画プラン推進協議会 議事要旨

1 会議の概要

日 時：令和3年3月22日（月）午後1：30～2：30

場 所：阿賀野市役所 1階 第1多目的ホール

出席者：【委員】小野会長、井上副会長、阿部委員、伊藤委員、遠藤委員、笹川委員、高橋委員、長峰委員、見尾田委員

【市】事務局：企画財政課（大橋課長、西潟補佐、中野係長、鈴木主任）

2 議事概要

- (1) 第4次阿賀野市男女共同参画プラン（案）について
- (2) 令和3年度新潟県女性財団共催事業について

3 発言の内容（主な意見等（○：委員 ●：市））

- (1) 第4次阿賀野市男女共同参画プラン（案）について

○パブリックコメントで意見をもらえたことはとても良かった。自分たちにとっても参考になる。

○パブリックコメントについて、広報やインターネットで案内しているにもかかわらず、提出された意見が1名だけであったのは残念。まだまだ男女共同参画が浸透していないということだと思う。引き続き広報活動を行うことが重要である。

○ハッピー・パートナー企業は増えてきているが、女性の役員はまだまだ少ないので現状。行政についても、女性の管理職は少ない。企業・行政ともに積極的に女性を登用することが大事である。また、性的少数者については、性別もマイノリティも関係なく1人の人間として尊重する社会を目指していかなければならない。

○最近はメディアでも男女共同参画が取り沙汰されているが、地方の方が性別による役割分担意識が強い。昔は男性に育児をお願いすると非難されたものだが、今は夫婦がともに育児をすることが一般的になりつつある。このまま広まっていって欲しい。

○社会福祉協議会は男性よりも女性が多い職場であり、必然的に施設の管理者も女性の割合が高いため、違った視点で見ることができると感じる。

○食生活改善推進委員協議会は男性が入れないと聞いている。そういうところを改善する必要があるのではないか。

○食生活改善推進協議会には、過去に2名ほど男性が参加していたことがあるが、やはりほとんどが女性であるため、活動しにくかったようだ。委員としては、男性の参加に賛成で

ある。

- 一般的には、委員の登用について性別を限定するようなものは規定に盛り込むことはない。確認が必要だが、運用でそのようになっている可能性はある。（企画財政課係長）

○当協議会の委員になってから、男女共同参画について周囲に意見を聞いてみた。男性・女性ともにそれぞれ向き・不向きがあり、すべてを平等にすることはできない。それとの違いと自由を認め、受け入れることが大切であるとの意見が若い人からあった。

○今は卒業式シーズンだが、以前に比べて両親そろって卒業式に参加する家庭が増えている。卒業式に参加するために有給を取得することに関して、企業側の理解も進んでいるからではないか。また、SNSに親しみのある若い世代は、マイノリティなどの情報を多く得ており、理解が深まっていると感じる。

○建設業界も徐々に女性の職人が増えてきている。人材不足もあり、是非とも女性に活躍して欲しい。しかし、更衣室など企業側の準備が整っていないことも事実。職種によっては、「男性の仕事である」というアンコンシャス・バイアスによって整備の進んでいないところもある。多様な人材を確保するために、企業側の環境整備も進めていかなければならぬ。

○最近はLGBTなどのマイノリティの人々がメディアなどで積極的に発信をしていたり、女性の活躍が段々増えていたりしており、そういうもののを見て育つ子ども達は、多様性を当たり前として受け入れることができる。その子どもたちが大人になった時、社会は大きく変わるものではないか。大人は子どもたちが多様性を受け入れられるような環境を作ることが大切である。

（2）令和3年度新潟県女性財団共催事業について

○アンコンシャス・バイアスをテーマとした講座の開催を楽しみにしている。昔からの固定観念はたくさんあり、固定観念から外れたことを目にすると驚くこともある。近年のランドセルの色にも表れるように、昔ながらの固定観念は徐々に薄れてきていると感じている。

○アンコンシャス・バイアスという言葉を初めて聞いたが、もっと早くこの言葉を知りたかった。悩みを持つ子どもたちも、固定観念にとらわれず、自由で良いのだと感じができるのではないか。このことを教育の場で教えていけるととても良い。

○以前は学校行事は母親のみが出席していた。自身の父も同様で、学校行事は母が出るものという意識だったが、卒業式に1度参加したことで、考えが変わったようだ。父は会社社長でもあるが、その経験から今では社員に卒業式などへの参加を推奨している。

○学校の名簿が男女別ではなくになっているなど、学校の方々が一生懸命に進めてくれているの

で、子どもたちには性別による固定概念はないと感じる。

○農家では、昔は世帯主が絶対で、女性や子どもが意見を言える状態ではなかった。今はむしろ子どもの意見の方が強くなっている。また、家族経営協定についても、昔はそれ自体が考えられなかった。少しずつではあるが、農家も変わりつつある。

○自身が40年前に東京から嫁いできた頃は、考え方の違いが大きかった。東京の方は早いうちから男女共同が進められてきたが、こちらはそうではなかった。しかし、現在は随分変わった。家庭についても話し合うことができるようになり、地域でも女性が参加するようになってきた。以前よりも雰囲気も良くなり、住みやすくなったと感じている。

○自身の職場でも男性職員が子どもの受診や学校行事で休むことが多くなり、変化を感じている。

○共催事業について、グループワークを避けて開催するとあるが、グループワークがあった方が良いのではないか。また、リモート開催をした場合は、受講者を会場に集めて開催するのか。

●共催事業については、現段階でテーマのみ決めている状況であり、新潟県女性財団との打ち合わせはこれからである。グループワークの可否を含め、開催方法・内容についてはこれから具体的な検討を行うため、いただいたご意見を参考に検討したい。(企画財政課主任)

○自身は建設業で社員も男性が多いが、その中でも女性は強い。また、女性の意見を積極的に取り入れている。女性の活躍を推進するためには、そのための環境づくりが大切である。国レベルでも、オリンピック組織委員会の会長に橋本聖子氏が就任したり、経団連の副会長に南場智子氏が就任するなど、今までにはない画期的なことである。世界レベル、日本レベルで男女共同参画が進んでいる中で、阿賀野市も同様に進めていかなければならない。